

広報 春秋あずまお 第十号

春秋あずまお 第十号によせて

坂本あずまおの政策と活動をお届けしようと思いましたが、今年で記念すべき第十号を迎えることとなりました。年初のご挨拶にかえまして御礼申し上げます。

世界中で先行き不透明な経済情勢が報じられていますが、これは世界中が新年から振り出しに戻って新しいスタートをするとも言えます。私達は今こそ夢と希望を持ち、将来に向け子供たちが夢を持てる姿を示さねばなりません。子供たちが夢と希望を持って生きる街づくりを目指して、私は自身の夢を板橋の秘めた可能性に賭していきたい。きれいな空気と水と大地。都市開発と交通整備。教育と生涯学習。このような様々な希望を一刻も早く形にすべく、本年も全力で努力して参る所存です。



坂本あずまおプロフィール

- 1978年(昭和53年)7月15日生まれ(30歳)
板橋区成増出身 かに座 B型 既婚
大学時代をトルコ・英国で過ごし、政治学を学ぶ。
卒業後、中国の環境事業に携わる。
2007年4月 板橋区議会議員に初当選
- 特技 『古武道』『美剣体道(みつるぎたいどう)』
獅子舞
- 役職 企画総務委員
公共用地等活用調査特別委員
- 所属 志村消防団第10分団団員
成増里神楽保存会会員
- ボランティア 成増クリーン大作戦
NPO地球文化交流会 など

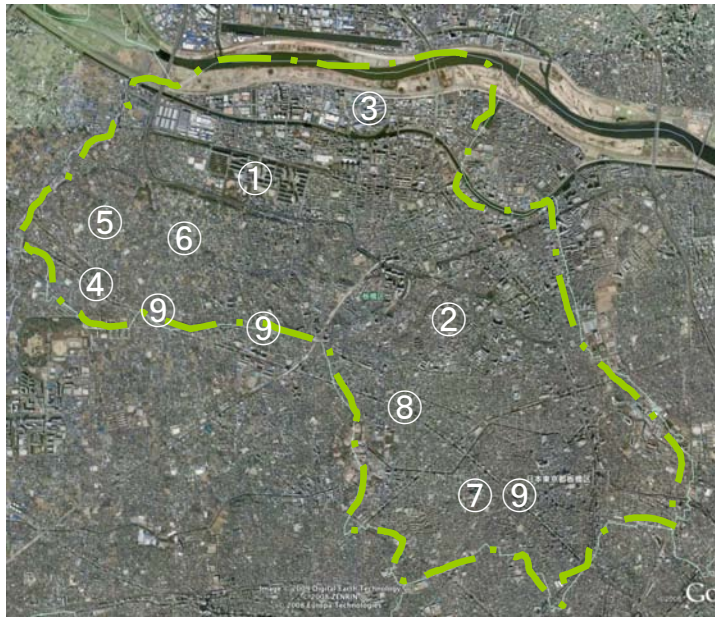
あずまお区政報告会

「十年後の板橋へ 交通と産業の街づくり篇」

十二月二〇日、皆様への一年間の感謝と活動報告をかね、成増のアクトホールにて恒例の年末区政報告会を致しました。

当日はご来賓の挨拶に続き、舞台上のスクリーンを使っての報告を行いました。区議として二年八ヶ月の活動の中で触れてきた板橋区の姿。そこから、今の区が置かれている状況と今後の課題が見えてきました。それは、経験が積むほど欠けてくる理想を抱くことの大切さです。区と

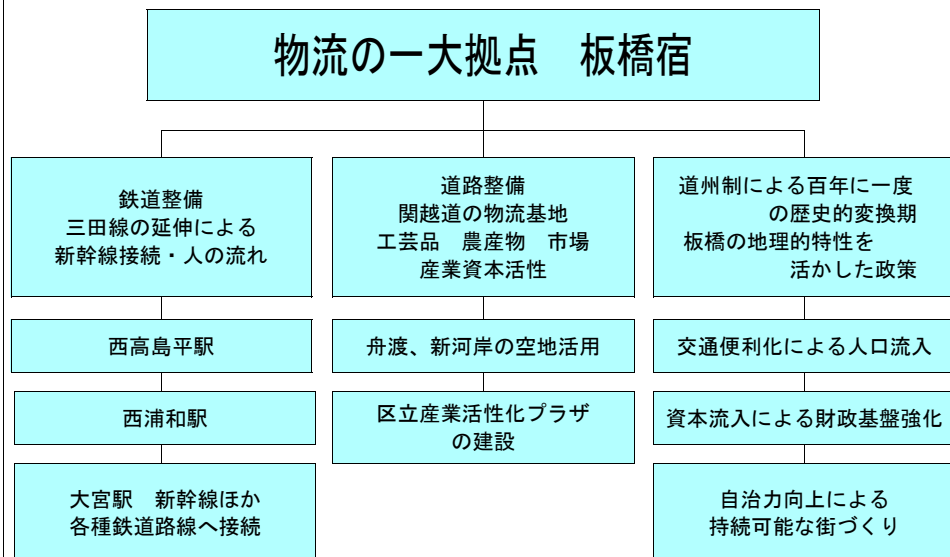
平成20年坂本あずまお区政報告会資料



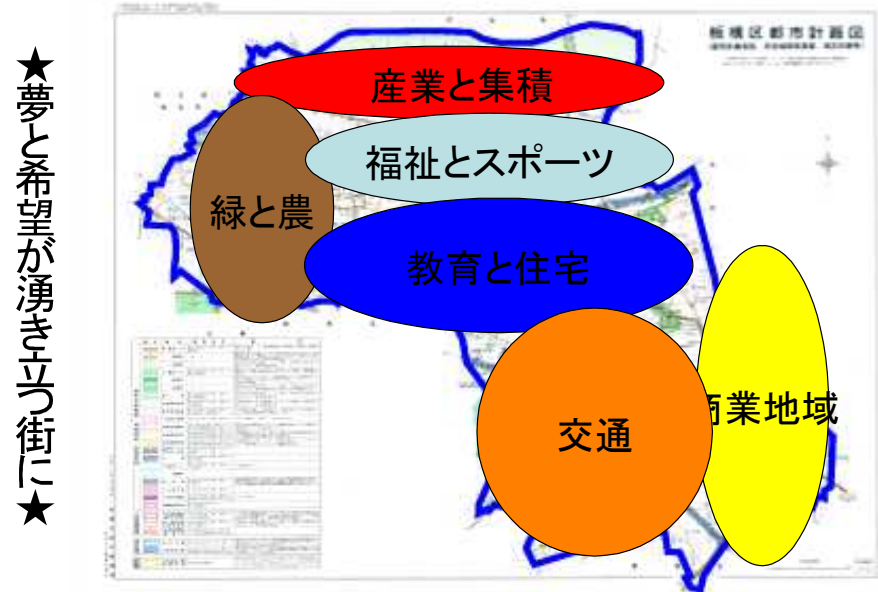
- ① 高島平の超高齢化と団地の立て替え(含成増団地)
- ② 区内産業(町工場)の衰退
- ③ 舟渡と新河岸の開発
- ④ マンションや新興住宅増加による住宅市街地化
- ⑤ 「地元」「町会」「伝統」の変化
- ⑥ 農地の減少
- ⑦ 日大板橋病院の下板橋駅移転
- ⑧ 東上線立体化?三田線接続?
- ⑨ 大山、上板橋、東武練馬の駅前事業
- ⑩ 食料、環境、エネルギー問題

【今後の板橋に起りつる変化】

【10年後の板橋を目指して=交通インフラ・産業経済の発展】



【地域の特性を活かしのびす】



【産業・街づくり】

「十年後をしっかりと見すえた街づくり計画を。」

都市開発と交通整備

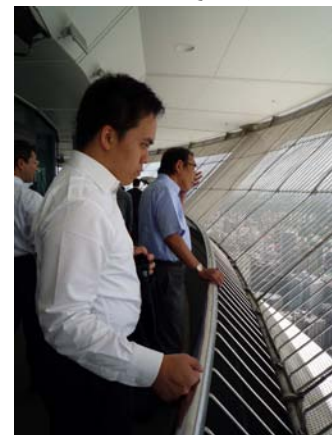
皆さんは、十年後の板橋がどんな姿になっているか、想像されたことはありませんか?道州制や都区制度改革 東京23区(のあり方)の議論を通して、都市や自治体の形体がいま大きく変わろうとしています。



鈴鹿市の新庁舎と名古屋市のコンビニ収納

7月24日25日 企画総務委員会視察

新庁舎が建設された三重県鈴鹿市と、税金未納対策としてコンビニエンスストア収納を開始し効果を上げた名古屋市の企画総務委員会視察。どんな施策でも、その事業後に展開させるべき明確な目標と値の設定をどれだけうまくできるかが重要であると、改めて気付かされました。



第七〇回全国都市問題会議

10月 新潟市ほか

全国の市区町長、議長、議員が集い勉強をすることでは、地域資源の活用とグローバル化が今年のテーマでした。深い考察、広い視野を地域経済発展という確固たる意志を持って展開させるべきだと、理想論・現実論・相混ぜて語られ、ここで学んだ考えが私の今後の交通・都市政策の重要な基礎になると感じました。

- 区民として、今一番必要なのは十年後の板橋の姿を正確に見だし、そこに向けて計画的に協働で進むことです。
- 人口の頭打ちと超高齢化による町組織の変化
- マンションと新居住宅増による町組織の変化
- 池袋・大宮・新潟など他区と周辺市の計画と発展
- 日大板橋病院の移転
- 道州制議論

●新幹線・首都高環状線開通 これら時代の大きな波を乗り越えるために板橋区が目指す姿の一つは、鉄道・道路交通によってヒトモノカネが集積する「大産業ターミナル化、つまり 街道宿場町・板橋宿の復興」と考えます。十年後の希望ある板橋づくりへ向け、三田線の大宮駅までの延伸、新河岸舟渡地域のインフラ整備を提言します。

【環境・教育】

都市開発と交通整備

7月 大田区立新宿小・墨田区立曳舟小ほか多数の視察から

東京都は三ヶ年八七億円を事業費として校庭の芝生化を推し進めています。芝生は雑草が面倒だし管理が大変だし、「...」という悪い印象をもたれがちですが、元気な子供たちが育つのに相当の効果が有り、近年の技術開発で以前よりはるかに維持管理の簡単な品種と工法が確立されています。

地球では、今一秒間にサッカー場二面分の緑が消えている」 EGO JAPAN(ス)ならば私達は、一年間で校庭一面分を芝生にしよう、という決意です。素足で遊べる学校環境を緑と農の成増・赤塚に。今後の重点政策の一つとします。



『都庁前の芝生イベント』

ゴーヤ・緑のカーテン

地球温暖化対策とはじめ

夏を通じて皆様とともに取り組んだゴーヤ・緑のカーテンプロジェクト。地球温暖化対策のことはじめとして、できることから始めようを合言葉に、街をあげて展開することができました。地産地消にもつながるこの活動は、来夏もさらに規模を大きくして取り組む所存です。また、区主催の「緑のカーテンコンテスト」に応募致しましたので、2月に行われる結果発表をぜひ皆様お楽しみに。



病児保育開設

日本初！子育てお母さんのための病児保育施設 発熱した子を親の仕事が終わるまで病院で保育するが、医師会病院と帝京病院の2カ所でスタートします。



地産地消の学校給食計画

三里四方の野菜を食べよう！昔から京都に伝わることわざで、地元の野菜を新鮮なうちに食べるのが健康の秘訣だと言います。板橋区の穫れたて野菜を学校給食に使用します。



環境

環境問題とはつまり、エネルギーそして水の問題にたどり着きます。排出権取引などの経済のまやかかしには捕われない、真の環境問題を見据えて環境政策に取り組みます。



赤二中と成丘小の小中連携事業

赤塚二中と成増ヶ丘小で行う小中連携教育。まだまだ駆け出しの段階ですが、学校側と児童生徒の取り組みを全面的にバックアップします。



『古武道 美剣体道教室』

【地域活動】

「ダンスを楽しむ」第二回和と美の会

9月27日

今や五百万人とも言われる社交ダンス愛好家。第一回のテーマであった和の次は美ということで、音楽に乗り呼吸を合わせ美を舞う、社交ダンスに初挑戦しました。社交ダンスは社会教育、健康増進、異性異世代との交流といった福祉面だけでなく、体の動きと呼吸が途中で途切れることのない、流れ続ける舞だと知り、日本の武道との共通点を見いだした次第です。三ヶ月の猛特訓の成果はいかに？



【文化・交流】

青年の伝統継承と、最新技術の地域産業

7月 米沢市視察より

歴史をしっかりと受け継ぐ米沢織と紅花染め。かつ世界中が今後の最先端環境技術として注目している有機ELディスプレイ開発。こんな伝統と最先端が同時に進行しているのが米沢市です。そのどちらも基礎としているのは、確固たる技術力とそれを地元の発展に結びたいという強い信念でした。地域の特性を活かし、人材と産業をインフラ整備によって育成する。これが産業振興の手法ではないでしょうか。

文化の継承

毎年、夏には東京中で阿波踊り大会が開かれ、板橋区でも成増阿波踊り大会、区民まつり、農業まつりと、三度踊る機会があります。こうした地域行事では、どうしてもベテランに甘えてしまいがちですが、次の成増阿波踊り大会では気を引き締め直し、アクト広場で「輪踊り」に一緒に挑戦する有志を募集しています。ぜひご参加下さい！

昨今、日本に伝わる大切な文化の本当の意義を私達は見失いがちです。なぜ神輿を担ぐのか、なぜ神社には参道が真っすぐのびており、なぜふるさとを大切にすべきで、米と地野菜を食わねばならぬのか。こういった、本当に大切なものは何か」という風土の心を検証する必要があります。



『和と美の会イベント』

※まほろば：素晴らしい場所 住みやすい場所 という意味の日本の古語

国際交流 9月 カナダの姉妹都市バーリントン市訪問

まもなく姉妹都市提携二〇周年を迎えるバーリントン市へ訪れ、不肖ながら私が公式通訳を兼ね、バーリントン市の新市長ほか多くの関係者と交流を図って参りました。これからは文化交流ばかりでなく、教育、スポーツ、環境と、多岐にわたる施策を共に進めていこうと、当市のカナダ人と夜更けまで直接語らう場を持ったことは非常に有意義でありました。

国際化のすすむ世の中で、日本人はいかにあるべきか。海外姉妹都市などとの積極的な交流を通して、子供たちに日本人として生きることの感覚に触れる機会を多く作って参ります。



第二回ゴルフ大会

11月7日

埼玉県・小川カントリークラブにおいて第二回坂本あずまゴルフ大会を開催いたしました。昨年第一回ゴルフ大会に引き続き、多くの方々とスポーツ交流を楽しみました。昨年の一番ホール一打目は緊張したショットで左OBでしたが、今年は右方向でなんとかおさまり、スコアは少しだけ良く、前年比になりました。

